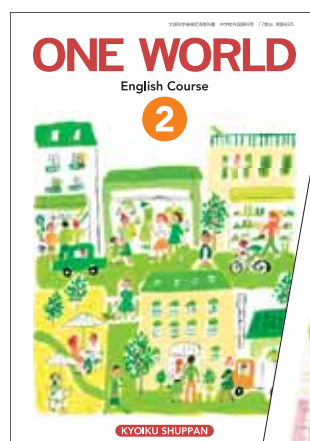
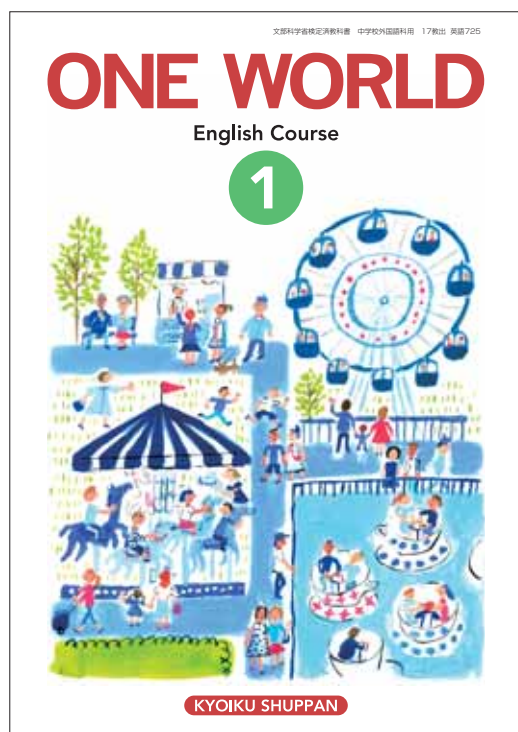




# ONE WORLD Info

## 英語教育 通信

「英語を使える人材」を育てるための指導計画～プロジェクト学習のすすめ～ … 松本 茂●

教科書の効果的な指導法 … 田尻 悟郎●

今ドキ英語事情 Tracking Today's Tech Talk… Peter J. Collins●

スムーズな小中接続に向けて … 泉 恵美子●

学習評価の観点 … 本多 敏幸●

小中を通したコミュニケーション能力の育成を目指して … 山本 敦子●

スピーチ活動の指導の工夫 ―「書く活動」と「話す活動」の連動― … 在間 正樹●

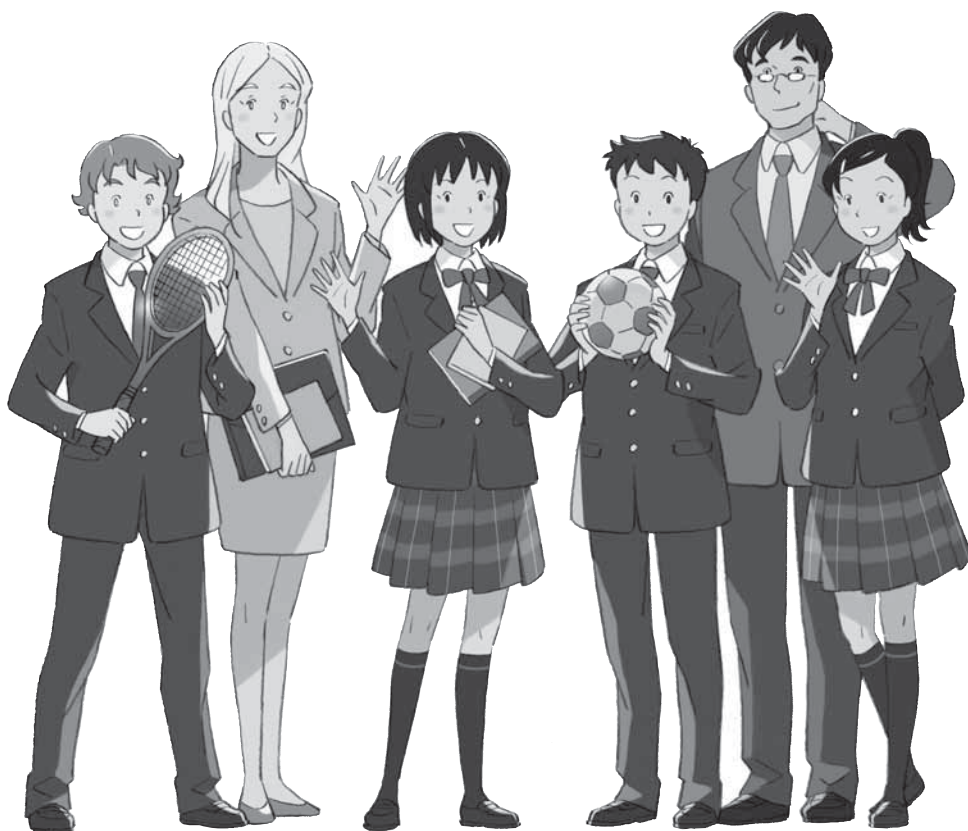
編集部からのお知らせとお願い●

英語が使えるようになる!

平成24年版

# ONE WORLD

『英語教育通信 ONE WORLD Info』2011年春号は、  
平成24年版 ONE WORLD 特集号として、  
その基本方針・実践案の一端をご紹介します。



### 特色 1

#### 習得から活用へ＝プロジェクト を中心に据えたユニット構成

本課の内容に関連したリスニング活動の **Preview**、本文の言語材料を定着させる **Activity**、本課の内容確認や言語材料のさらなる定着を図る **Task** などを通して、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、**Project** でそれらを活用します。

### 特色 2

#### 「教科書本文」を使った 生き生きとした授業

教科書本文を使って、「理解」「習熟」「応用」「発展」の活動ができ、生徒が英語を楽しく学ぶことができます。

### 特色 3

#### 小学校外国語活動を 踏まえた 1 年導入部

第 1 学年の始めに、小学校外国語活動を楽しくふり返りながら、中学校英語学習への橋渡しをする **Springboard** を設けました。

## 新しい ONE WORLD の特色

### 特色 4

#### 「読む」「書く」活動の充実

**Reading Tips** では、長文読解に役立つ「読み方」とそれを使った活動を行い、長文の読み方に慣れます。また、**Writing Tips** ではアルファベットの正しい書き方から、まとまりのある英文を書くためのコツまでを学びます。

### 特色 5

#### 文構造・文法の 確かな定着

文のつくり方では、文構造・文法を理解しやすい適切な時期にまとめて整理しました。

### 特色 6

#### 無理なく語いを増強

側注に示した **Vocab Builder** では、本文で扱った 1 文の単語を置きかえることで、無理なく語いを増やすことができます。また、**Word Watch** では関連する分野ごとにまとめた語いを、さまざまな活動を通して身につけます。さらに、**辞書を引こう** では辞書の活用方法を学習していくことで、未知なる単語に対する学習意欲を高めます。

### 特色 7

#### バラエティー豊かな 話題・題材

異文化、日本の伝統文化、自然科学を扱った話題や題材を、中学生にとって興味・関心が高い切り口で取り上げています。

# 「英語を使える人材」を育てるための指導計画

## ～プロジェクト学習のすすめ～

立教大学 松本 茂

### 新学習指導要領における英語教育

いよいよ来年4月から、中学校では新学習指導要領が実施され、新しい教科書を使って週4時間以上の授業を展開することになります。早く来年が来ないかと思っていられる先生も多いことでしょう。小学校では今年度から外国語活動が必修化され、高校では再来年度から、これまで以上に生徒主体の活動に重点が置かれ、英語で授業を行うことになっています。この2つの教育機関を橋渡しする「中学校英語」は、これまで以上に大きな意味を持つでしょう。生徒たちが英語を使えるようになるかどうかは、中学校での学習にかかっているといっても過言ではありません。

どの教科にもある程度共通していえることですが、特に英語のような言語教育においては、以下の3つの要素をバランスよく取り入れることが、よい授業を展開するうえで重要です。

- ① Content（内容）
- ② Thinking（思考）
- ③ Language & Communication（言語とコミュニケーション）

ところが、これまでの中学校・高校における英語の授業では、教師の関心が、③の Language（文法や語彙）に集中し、Content と Thinking には十分な配慮をしてきたとはいえない状況が続いてきました。しかし、この3つの要素をバランスよく考慮したうえで指導計画を立てないと、生徒たちは英語を使えるようになりません。また、基礎・基本の定着という点からしても、Language だけに焦点が当たった授業は効率的ではありません。

Content について重要なことは、英語で書かれてある内容が生徒にとって興味深く、生徒の頭と心を揺さぶるようなものであり、各課で扱う内容に、ある程度の流れ（一貫性）があるということです。そして、英文の内容を易しい英語で言い換えたりまとめたりしたうえで、自分の意見を英語で言ったり書いたりすれば、おのずと Thinking という過程が発生します。そのことによって、英語の四領域のうちのいくつかの領域を有機的に結びつける体験ができます。

さらに、この一連の活動を行う際に必要となりそうな語彙、表現、文法事項を事前に提示しておけば、生徒はそれらを参考に Thinking と Communication を体験できるようになるのです。そして、このようなプロセスを経て、Language そのものも定着し、英語を使えるようになるのです。

小学校では、英語や異文化に興味・関心を持つように Communication を重視した指導をします。

高校では、Content を重視しつつ、Communication 活動を豊富に取り入れた英語による授業を展開します。この両方を結ぶ中学校英語で、前述の3つの要素を取り入れることは、必須といってもよいでしょう。

### 英語によるプロジェクト学習の留意点

プロジェクト学習というと、「訳読・文法指導」の対極をなすものとしてもはやされた「コミュニケーション指導」を思い浮かべる読者がいるかもしれません。しかし、プロジェクト学習は、少なくとも日本の多くの中学校・高校で行われていたコミュニケーション活動とは発想が違います。

というのは、コミュニケーション指導の多くは、(1) 教師主体で行われ、(2) 文型や語彙の定着を目的としていて、(3) 社会の文脈からはほど遠い非現実的な状況を設定して活動させるといった感が強いのです。知識を授けてあげる対象として生徒を捉えているという点では、文法・訳読式の指導となんら変わりありません。

これに対して、英語の授業におけるプロジェクト学習とは、「実際に英語を使って他者に働きかけ、影響を与えるような課題を設定し、その課題をやり遂げるまでの過程において英語を使用し、その経験を通して学ぶこと」なのです。

その特徴は、(1) 生徒が主体的に学び、(2) 結果よりもプロセスを重視し、(3) 他者や社会との結びつきを重視しているということです。このプロジェクト学習を成功させるには、より綿密な指導計画が必要です。特に以下の点に注意を払う必要があります。

- ① ユニットごとにプロジェクトを設定する
- ② 段階的に難易度を上げる
- ③ 教科書の内容に連動させたいので、生徒にとってやりがいのある課題にする
- ④ *Activity* ⇨ *Task* ⇨ *Project* のように段階的に進める

とくに④で挙げたように、生徒が取り組む活動や練習は、教師のコントロールの度合いが高い high-structured なもの (*Activity*) から、mid-structured なもの (*Task*)、そして教師のコントロールがきわめて低い low-structured なもの (*Project*) へと段階的に進むように設計すると、指導上無理がなく、習熟度が低い生徒たちを指導する場合にも、成功する確率が高まります。

しかし、これらすべてをご担当の先生がゼロから作成することはきわめて大変であり、だからこそよい教科書が必要なのです。プロジェクト学習の要素を取り入れた新版の ONE WORLD の内容、段階的な活動の流れ、言語材料の配列、設定されてあるプロジェクトなどを参考にされたうえで、地域の特徴、生徒の興味・関心と言語レベルを考慮に入れ、さらに近隣の小学校と高校の先生と連携したうえで指導計画を立てるとよいでしょう。

ぜひ、英語を使える人材をご一緒に育てましょう！

# 教科書の効果的な指導法

関西大学 田尻 悟郎

## 1. 教科書本文の扱い

教科書本文をどう扱うかということについては、多くの先生方が悩んでおられる。不定詞、比較、助動詞、受動態、現在完了、関係代名詞など、重要表現は時代を経てもほとんど変わっていないので、その間指導法や活動に関してさまざまな研究が行われ、研究会や書籍でたくさん発表されてきた。だから、その気になればいつでもアイデアをもらうことはできる。

一方、教科書本文をどう生かすかに関する書籍は、ほとんどないといってよい状態である。教科書本文の読解は、実際のところ授業の大部分を占めているが、効果的な指導法を知っている人は多くない。したがって、研究授業などでは、教科書本文をじっくり扱う場面を公開することはめったにない。今後は、教科書本文をどう生かすかを、英語授業研究の大きな柱の1つにすべきだと考えている。

## 2. 語学の3段階

語学には「理解 (input)」→「習熟 (intake)」→「応用・発展 (output)」という流れがある。教科書本文の学習段階も同様であり、それぞれ以下のように定義している。

- **理解** … 各文の意味・構造を理解すること
- **習熟** … 教科書本文を暗記すること
- **応用** … 教科書本文の一部を入れ替えて新しい文を作る、肯定文を疑問文にする、代名詞を元の名詞に戻す、語句を加えるなど、本文を操作すること
- **発展** … 教科書本文に、新たに文を加えたり続きを書いたりする、本文のトピックに関して調べ学習をし、発表したり議論したりするなど、本文に関連する本文以外の英文を読む・聞く・書く・話すこと

日本の英語教育では、多くの時間が「理解」の部分に割かれている。これをスポーツに例えると、監督・コーチが黒板やホワイトボードを使ってたくさん説明し、選手が練習する時間はほとんどないという状態に似ている。それでは選手に力はつかない。

あるプレーを簡単に教えたら、習熟のためにどんどん練習させる。監督は一人ひとりの選手を観察し、できていることを褒め、できていないことを発見して指導をしたり、向上のためのヒントや練習方法を指示したりする。その中で、選手は監督・コーチの言葉をかみしめたり、自分なりに解釈したりして理解を深め、技能を伸ばしていく。そして、試合で実際に使ってみて、うまくいったときに習得感を持ったり、相手に合わせてそのプレーを応用したりするようになる。自信を持ったら、次は友だちに教え始める。教える中でさらに理解を深め、自分なりの工夫も生まれてくる。

教科書を使った授業も、この流れを取り入れたい。「理解」に時間を割き過ぎないような手立てを講じ、「習熟」や「応用・発展」に時間をかけ、できないことや間違いから学ばせるようにすると、生徒の集中度や参加度、学力が上がり、教師の満足度も上がるのではないだろうか。

### 3. 実際の授業例

では、新しい ONE WORLD を使って、いくつか授業例を紹介し、この文章を締めくりたい。

例) 1 年生 Lesson 1, Part 2

#### 理解

(1)「アヤの性格を見抜け」

アヤの性格について、このページから分かることを 4 つ日本語で書かせる。

解答例：

- ① 佐藤先生に英語であいさつされて、きちんと英語で返答しているので、まじめな子。
- ② Excuse me. とキング先生に話しかけているので、礼儀正しい。
- ③ 佐藤先生とはあいさつもそこそこでほとんど会話もせず、すぐにキング先生に話しかけているので、かなり積極的で、英語でのコミュニケーションに興味を持っている。
- ④ 「あなたはキング先生ですね。」とキング先生に英語で尋ねているので、小学校外国語活動でこの表現を練習したか、英会話学校に通っている。そうでなければ、佐藤先生に「この人は新しい ALT の先生ですか。」などと日本語で尋ねる可能性が大きい。

(2)「心のつぶやきを拾え」＝「あなたも星飛雄馬（『巨人の星』の星飛雄馬が、投球する前に心のつぶやきを言う様子から名付けた活動）」

言葉は心と頭が動いたときに、口が連動して動いた結果出てくる音。したがって、各セリフを言う前に心のつぶやきがあったと考えさせ、そのセリフを日本語で書かせる。

解答例：※（ ）は心のつぶやきを表す。

Mr. Sato: (お、アヤだ。この子は英語ができるはずだから、ここは一つ英語で話しかけてみよう)  
Hi, Aya.

Aya: (英語で話しかけられたら英語で答えなきゃね) Hello, Mr. Sato.

(あ、この人新しい ALT ? 話しかけてみよう) Excuse me.

(キング先生っていったよね) You are Ms. King, right?

(自分も名乗らなきゃ) I'm Aya.

Ms. King: (初めて見る子だ。よろしくね) Nice to meet you, Aya.

Aya: (こちらこそ) Nice to meet you, too, Ms. King.

#### 習熟

「心のつぶやき呼応音読」

ペアになり、一方が「あなたも星飛雄馬」で書いた日本語を 1 文ずつ読み、もう一方の生徒が教科書を見ずに、それを手がかりに本文を暗唱する。(往復 1 分以内が目標)

#### 応用

「ジェスチャー音読」

3 人 1 組でジェスチャー音読。名前は生徒たちに置き換えて演じる。役割を交代しながら、1 分で 3 回演じることができるよう指示をする。Excuse me. というときのアヤの目線がどこを向いているかを考えさせる (本文では、佐藤先生 or キング先生、両方ともあり得るので、そこで迷わせる)。



例) 2 年生 Lesson 6, Part 2

**Lesson 6**  
**Part 2**

アヤが将来つきたい仕事について、クラスのみんなに写真を見せながら語ります。

My favorite photographer is Urashima Koichi. He lived in Toyokoro-cho, near Obihiro. He visited the same elm tree day after day to take photos of it. When I saw these pictures for the first time, I was so moved. This summer I visited this tree to take my own photos of it. I was very happy to be there.

自分の気持ちをまじえながら話すことができる

Unit 2

photographer [fɒtəˈɡrɑːfə]  
moved [muːvd]  
elm [ɛlm]  
elm tree 榎の木  
day after day

Visual Builder  
I was very happy to go there.  
bowling [bəʊlɪŋ]  
juggling [dʒʌɡlɪŋ]  
sailing [seɪlɪŋ]  
trekking [ˈtrekɪŋ]  
shopping





理解

「合いの手を入れよう」

次のような日本語の合いの手の文を、本文中のどこかに入れさせる。

- ①好きな写真家っているの？ ②どこの人？ ③豊頃町って？ ④浦島さんがよく行った場所があるらしいね。 ⑤どれぐらいのペースで？ ⑥何をするために？ ⑦何の写真？ ⑧それがその写真なんだね。どう思う？ ⑨何回目？ ⑩どう思った？ ⑪あ、ひょっとして今年の夏休みは？ ⑫どこを訪れたの？ ⑬木を見に？ ⑭何の写真？ ⑮そこへ行ってみてどうだった？ ⑯いい写真が撮れた？

習熟

「合いの手音読」

音読練習や Read and Look Up をしたあと、ペアになり、一方が前述の合いの手の、下線が引いてある文 (①②④⑧⑪⑮) を読む。もう一方の生徒が教科書を見ずに、それを手がかりに本文を暗唱する。1 文が長いので、暗誦している生徒が途中で言葉に詰まったら、③⑤⑥⑦⑨⑩⑫⑬⑭⑯を読む。(往復 1 分 40 秒以内が目標)

応用

(1) 「3 人称音読」

ペアになり、一方が Read and Look Up をする。もう一方は、聞いた文の、本文中の代名詞を元の名詞に変更して暗唱する。ただし、1 文中に同じ人物や事物を指す語が 2 度登場したら、2 度目は代名詞を使ってもよい。また、this は that, these は those に交換し (ただし、this summer は変換しない)、最後の be there は同じ意味を表す本文中の他の表現と差し替える。

解答例：※ \_\_\_\_ は本文の代名詞を元の名詞に変更した箇所

Aya's favorite photographer is Urashima Koichi. Urashima Koichi lived in Toyokoro-cho, near Obihiro. Urashima Koichi visited the same elm tree day after day to take photos of the elm tree. When Aya saw those pictures for the first time, Aya was so moved. This summer Aya visited that tree to take her own photos of the elm tree. Aya was very happy to visit the elm tree.

(2) 「あなたも英語教師」

それぞれの文からいくつ疑問文が作れるかをペアで考え、Q&A をする。

# Tracking Today's Tech Talk

Tokai University  
Peter J. Collins

There's no doubt about it – social media have played a major role in the Middle East's recent unrest. While protestors were marching, some of their key organizers were uploading news updates, photos, and videos to online forums. The term "Facebook revolution" has been coined to describe how this "Internet activism" influenced events there.

I've been struck by some of the new "tech" words used to describe what's happening in the area. Many of them feature the prefix "cyber-," signaling their connection to computers, information technology, or virtual reality. Wael Ghonim became Egypt's most famous "cyberactivist" through his anti-Mubarak Facebook page. The government tried to stop this and other "cybersubversion" by shutting down Egypt's Internet service. But in arresting Ghonim, they inadvertently turned him into a much-admired "cybercelebrity."

For over a decade, events and movements around the world have been orchestrated by "cybersavvy" planners. The target audience may be Tokyo teenagers hoping for a glimpse of their favorite singer or teachers in Chicago rallying against budget cuts. These crowds have become known as "smart mobs". While "mob" suggests an unruly, unpredictable group of people, today's information-sharing technology can keep them orderly and "smart."

Non-activists, too, are impacted by Internet

trends. In fact, "to trend" is a new noun-turned-verb describing a peak in interest among Internet users. Whenever I go to the Yahoo! Website, I scan the "Trending Now" list on their topic page. I can keep up with breaking news on anyone in the list by clicking on a link.

A "meme" describes a specific kind of trend, in which an image or idea spreads rapidly through social media. Many of the most popular memes are videos you may remember because a friend sent you the links or because they were featured on TV variety shows: the sneezing panda, the "Numa Numa" dance, or the child complaining "Charlie bit me – again!" Every now and then, a new video "goes viral," sweeping the globe in a matter of hours. One of the most famous memes was Susan Boyle's appearance on *Britain's Got Talent*. The amateur singer became an overnight "cybersensation," after the video received over 60 million online "hits."

While memes are one-shot trends, the Internet also offers many "web series" made up of "webisodes." This word, created by merging the words "web" and "episode" and admitted into *Merriam-Webster's Collegiate Dictionary* in 2009, also has its own adjective form: "webisodic." The most popular web series of last year, *The Annoying Orange*, peaked at 52 million hits in March 2010 alone!

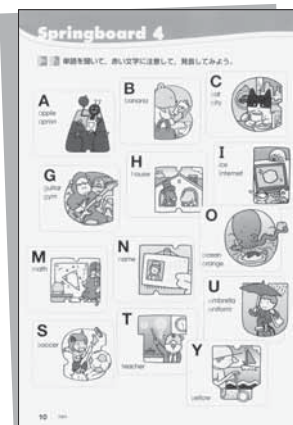
With so much online to keep us informed and entertained, it's no wonder the words "screen" and "teenager" have been combined into "screenager" to describe young people addicted to the Internet. Whether we're part of a cybersavvy smart mob demanding justice or logging on to YouTube for the latest webisode of our favorite series, information technology has changed both our way of life and the English we use to describe it.

京都教育大学 泉 恵美子

平成 23 年度より、小学校高学年で「外国語活動」が年間 35 時間必修となり、計 70 時間の外国語活動が行われることとなった。その目標は、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」である。文部科学省は、教材として『英語ノート 1, 2』を作成し、それらは全国の 5, 6 年生の児童に配布され、『英語ノート』準拠 CD、デジタル版、『英語ノート指導資料』が各学校に配布された。語彙は計 280 語程度となっている。

『英語ノート』と中学校英語との共通した内容は、「言語の使用場面」では、あいさつ、自己紹介、買物、食事、道案内など、「言語の働き」では、相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促すなど、「言語材料」では、be 動詞、肯定／否定の平叙文、命令文、疑問文、現在形、助動詞 can など、「語彙」では、月日、曜日、時間、数、国名、動物、科目名、食べ物、日課、外来語、職業などがあり、これまで中学校で教えられてきたことの多くが小学校でも取り扱われている。しかしながら、小学校では音声を中心として活動を進め、文字や英語の読みは音声によるコミュニケーションの補助としてのみ指導することになっており、英語の文字を読んだり書いたりといった指導は行っていない。そこで、聞く・話す活動を通して音声で親しんできたものを、中学校で明示的に文法規則や文字を示しながら理解させ、定着をさせることが望まれる。

また、主な活動内容は、歌・チャンツ、ゲーム、クイズ、コミュニケーション活動、絵本となっており、カードやCDなどを用いて英語に親しむ活動や、あいさつや自己紹介などの簡単な会話、買物や道案内などの楽しい活動が体験的に行われている。その中で、英語と日本語との音やリズム、発音の違いに気付かせたり、音韻認識を高めたり、英語でコミュニケーションをする楽しさを味わわせたり、内容を推測しながら全体の意味を把握させたり、さまざまな文化や国際理解の視点も与え、交流・創作活動なども行われている。



一方、中学校の学習指導要領の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」であり、外国語活動との大きな違いは、コミュニケーションへの関心・意欲・態度に加えて、外国語表現ならびに外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解など、4つのスキルをはじめとした知識と技能の習得が明記されていることである。そこで、外国語活動の土台の上に中学校英語教育が成り立つことは明白であり、小中の円滑な接続と連携が重要不可欠であるので、小中連携に当

たっては、カリキュラム、到達目標、指導内容、指導方法の一貫性・系統性を十分に考える必要がある。また、英語嫌いをつくらず、音声、語彙、文字、文法など、段階的に発展させていけるよう、無理なく習得できるように配慮をしなければならない。



新版 *ONE WORLD English Course 1* は、導入部分に Springboard 1～5 を小中接続のために設けており、小学校外国語活動で扱った語彙や表現、発音・文字指導などを踏まえて、これまで体験してきた活動内容や指導方法を用いて楽しく復習しながら、中学校英語の導入も同時に行えるように、段差のないスムーズな接続を意識して作成している。これらを用いて、小中連携で最も大切だと考えられる中学校1年の導入期の指導を、音声を聞いて理解していたものを、文字を意識させたり書かせたりすることで行わせたい。例えば、Springboard 1の「英語で言えるものを探そう」では、家の絵を見ながら身の回りの英語で言えるものを探して言ったり、英語を聞いて絵の中からその単語を探し、番号で答えたりする活動になっており、単語の意味と音声をつなぎながら身近な語彙を復習することをねらいとしている。Springboard 2の「英語を聞いてみよう」では、町の様子を表した絵を見ながら、人々の動作や様子を、英文を聞いて答える活動となっている。Springboard 3の「アルファベットを学ぼう」では、小学校で導入したアルファベットを聞いたり、英語の略語を聞いて英語で書いたり、カードをつくる活動を通して、聞いて発音することから文字を書くことへのつなぎとなっている。また、Springboard 4の「単語を聞いて発音してみよう」では、既習の単語の意味と音と文字を結びつけるものであり、音から文字への接続となっている。Springboard 5の「自己紹介を聞こう」では、絵を見ながら教科書に登場する人物の自己紹介を聞かせて、名前と出身、趣味を聞き取り、英語を書かせる活動となっている。

小学校で達成感を感じていた生徒が、中学校で4領域を扱う中でつまずきが見られることも多い。小学校では「言えた」、「伝えられた」、「相手のことが理解できた」と感じる事が大きなねらいであったが、中学校では「言えたことを書けた」、「聞いたことが理解できた、読み取れた」といった正確性が求められる。また、中学校で音と文字をつなげることに抵抗を感じる生徒も出てくるが、どうしてもドリル的で機械的な活動はおもしろくないため、興味を失ってくる。そこで、興味を持続させ、うまくつなげる工夫をしなければならない。楽しく文字に触れ、楽しく学ぶ文字指導を導入すること、異文化・自国文化の理解から、他者尊重・自己肯定感へとつながる学習内容を工夫することなどが大切とされており、Springboardの有効活用が期待される。

また、発音も大切な要因であるが、「発音と綴りを関連づけて指導する」といったことも意識し、良質な音声のインプットを与え、全体的に意味を取らせる学習の中で、プロソディーを含めた発音・辞書指導も丁寧に行っていきたい。その際、音読などを用いた言語の内在化が重要であり、聞いて理解できる段階から、覚えて言える、簡単な言い換えができる、自分で文を産出して活用できるといった段階まで指導することが大切である。ONE WORLD はそのような活動や指導が可能となるように、随所にさまざまな工夫がなされている。

# 学習評価の観点

東京都千代田区立九段中等教育学校 本多 敏幸

平成 22 年 11 月に、国立教育政策研究所より「評価規準の作成のための参考資料」（以下、参考資料）が発表された。新学習指導要領の下で行われる評価についての参考になるように、評価規準や評価方法等の工夫改善に関する調査研究を行い、それらをまとめたものである。本稿では、参考資料で示されている評価規準についての基本的な考え方と、平成 14 年 2 月に発表された「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」との違いについて説明する。

外国語の評価の観点の名称が、これまでの「表現の能力」から「外国語表現の能力」に、「理解の能力」から「外国語理解の能力」に変更された。各教科の評価の観点の基となる「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の中の「表現」や「理解」との混同を避けるためである。新学習指導要領の下での外国語の 4 つの観点とその趣旨は次の通りである。

## <評価の観点及びその趣旨>

| 観<br>点 | コミュニケーション<br>への関心・意欲・態度                       | 外国語表現の能力                       | 外国語理解の能力                            | 言語や文化について<br>の知識・理解                                       |
|--------|-----------------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 趣<br>旨 | コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 | 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。 | 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。 | 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。 |

評価規準は、上記の 4 つの観点にもとづいて内容のまとまりごとに作成することになっている。外国語における内容のまとまりとは、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の各技能である。参考資料には、評価規準に盛り込むべき事項として、内容のまとまりごとの各観点到「言語活動への取組」「適切な発話」「正確な筆記」など、それぞれ 2 つの項目が示されており、その具体例が「評価規準の設定例」として載せられている。学習指導要領には、技能（＝内容のまとまり）ごとに 5 つの言語活動が示されている。言語活動は 3 年間を通して行わせることであり、これら 20 の項目が参考資料の評価規準の設定例に反映されている。例えば、「読むこと」では「(ウ)物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること」が示されているが、参考資料では、「読むこと」の「外国語理解の能力」に「あらすじや大切な部分などを読み取ることができる」という評価規準が例示されている。

また、前回の参考資料からの改善点の1つは、学習指導要領に載せられている言語活動が16項目から20項目になったことによる。これに伴い、次の例が加えられている。(下線は筆者による)

○まとまりのある英語を聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。

(「聞くこと」の「外国語理解の能力」)

○与えられたテーマについて、自分の意見や主張をまとまりよく話すことができる。

(「話すこと」の「外国語表現の能力」)

○話の内容や書き手の意見などを批判的に読むことができる。

(「読むこと」の「外国語理解の能力」)

○内容的にまとまりのある文章を書くことができる。

(「書くこと」の「外国語表現の能力」)

ほか、前回の参考資料からの改善点として、「言語や文化についての知識・理解」のうち、「言語についての知識」の評価規準の具体例が精選されている。例えば、「聞くこと」では5項目から2項目に絞られている。前は音声面の知識だけでなく、場面や状況に応じた表現や文構造についての知識が例示されていたが、今回は音声に関する知識のみとなっている。

評価規準を設定したとしても、それを適切に評価できなければ設定した意味がなくなる。適切に評価するために、評価規準を作成するに当たっては次の点に留意すべきである。

#### 評価規準作成の留意点

- ① 教科書の単元(レッスン、ユニット、プログラムなどの名称)ごとに評価規準を設定する際、評価できる現実的な評価規準の数と内容とする。
- ② 評価方法を同時に考えながら設定する。また、ペーパーテストの結果だけに偏らないで、さまざまな評価方法を取り入れる。
- ③ 評価機会をいつにするのかも同時に考えながら設定する。すべての評価を単元内で行うのではなく、後日行うことも考えられる。単元ではなく、長い期間をかけたほうが適切に評価できることもある。また、学期末に評価機会が集中しないようにすることも大切なので、バランスよく評価機会を設けるようにする。

評価を行ったら、それをその後の学習指導の改善に生かすことが求められている。評価のためだけの評価ではなく、評価を行うためだけの評価規準でもない。指導と評価の一体化とよくいわれるが、各生徒が各評価規準を達成できているかどうかを見極め、達成できていないなら、指導し直したり継続的に指導したりすることが必要である。また、文法や語彙の指導に時間を費やし過ぎて多くの言語活動を行う時間を取らなければ、生徒に総合的な力は付けられず、バランスのよい評価もできない。学習指導要領に示されている言語活動の20の項目を意識的に行うことが大切であり、そのためにも教科書に載せられているさまざまな言語活動を行わせ、それらの活動を通して評価するとよい。



# 小中を通したコミュニケーション能力の育成を目指して

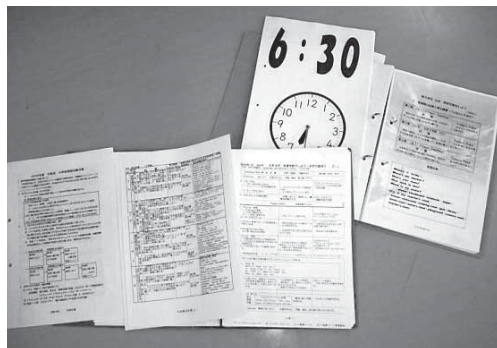
## — 小学校外国語活動カリキュラム作成と小中連携 —

小牧市英語教育推進委員会 愛知県小牧市立小牧中学校 山本 敦子

### 1. 統一カリキュラム導入の流れ

小牧市では、平成 18 年度より「英語教育推進委員会」を発足し、小学校外国語活動の一斉導入に向けた調査研究を始めました。翌 19 年度からは各小学校の外国語活動担当教師による「外国語活動推進委員会」を組織し、市内統一カリキュラム、LESSN プラン集の作成に取りかかりました。統一カリキュラムは平成 20 年 3 月に告示された新学習指導要領の内容を実施できるよう、『英語ノート』の内容を各単元に配置して完成させており、21 年度から、これを使った外国語活動をスタートしています。

また、このカリキュラムの内容を市内全小学校に普及させ、中学校との連携も図るために、従来から市内中学校英語教師と小学校英語担当者で活動してきた「英語教育研究会」に、本年度より各小学校 5、6 年の外国語活動担当教師も加えて、月に 1 回研修会を行っています。



### 2. 外国語活動導入成功のための 3つの柱と実践

次に紹介するのは、外国語活動導入成功の

ために設定した 3 つの柱と実践です。

**(柱 1) 児童を中心に据え、担任と児童と一緒に学び合う授業形態**

① DVD を活用し、理解を助けながら ALT 指導から担任指導へスムーズに移行

#### <授業の流れ>

##### 第 1 時 担任+ALT

Native Speaker の ALT による指導を活用し、単元全体の新出表現やその使い方を楽しく導入。TPR (Total Physical Response) による input 理解



##### 第 2 時 担任+協力員 教材：DVD

映像で状況を判断しつつ Native Speaker の音声を理解。担任指導による復習的なアクティビティ



##### 第 3 時 担任+ALT (+協力員)

教材：英語ノート (電子黒板用ソフト)  
体験的なコミュニケーション活動や国際理解的な活動

小学校段階の児童は、音声に対して柔軟な適応力があるので Native Speaker による質の高い英語の音声を聞かせたい。そして、それを担任の持つ指導技術によって理解させ、慣れ親しませていく。そのために市独自の DVD を製作し、映像に登場する ALT とやりとりをしながら、教師と児童が共に楽しく学び合う授業形態をとることにしました。担任の音声面や授業運営での不安が解消できるとともに、機器を使うことで、必要があれば何度も同じ会話を聞かせることができる手軽さも重宝しています。

第 3 時に関しては、LESSN プラン集作成

段階で、英語ノートから各月の活動内容とできるだけ関連する内容を選ぶこと、英語ノートのほぼすべての単元から偏りなく内容を拾い上げることに留意しました。「幅広い言語や文化に対する気付きや理解、何のために外国語を学ぶのかという動機づけ、日本語に対する認識を深めるなど、中学校からの英語学習の礎となる内容を含む体験的な活動となるよう」という英語ノート使用の趣旨を確認し合い、英語ノート試作版や指導書を基に、推進委員で手分けをして作りました。各校に配置された電子黒板を活用できるよう、電子黒板用ソフトの活用研修会も行っています。

第1時でALTとともに導入した語彙や表現を、単元全体を通してさまざまな媒体から繰り返し聞いたり、ゲームやアクティビティの中で楽しく使ったりすることで、知らず知らずのうちに音声に慣れ親しみ、第3時のコミュニケーション活動が無理なく行えるようになることを目的としています。

## ②児童が主体的に取り組むための活動形態と、指導者の役割分担の明確化

児童を外国語活動に主体的に取り組ませるため、日直を中心にして、あいさつや目標の提示などを行う活動形態にしました。また、担任、ALT、協力員（英語の堪能な地域のボランティアの方）の働きかけの役割分担を明確化したマニュアルを作成しました。

### 〔柱2〕中学校につながる積極的なコミュニケーション態度の育成

#### ①コミュニケーション態度目標の共通理解

教師、ALT、協力員と児童が合言葉にし

| Communication Aims and Evaluation Points<br>コミュニケーション目標と評価ポイント<br>一人一人の活動を充実させる児童の活動目標と評価 |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をはかるために、児童にも目標の意味を伝え、自己評価や相互評価、ふり返りを通じて定着を図っていきましょう。      |  |
| Smile ..... 笑顔で会話をしよう<br>(心が開かれる)                                                         |  |
| Eye Contact ..... 相手の目を見て会話をしよう<br>(信頼感)                                                  |  |
| Listen and Reply ..... 相手の話をよく聞き、相づちを打とう<br>(真剣さ・相手への敬意)                                  |  |
| Clear Voice ..... はっきりした声で伝えよう<br>(自己表現・聞き手への意識)                                          |  |
| Positive Attitude ..... 積極的に伝えよう～表情豊かに、<br>(まがいをとおせぬ積極的な姿勢) ジェスチャーを使って                    |  |

て励ましあうことができるような5つの目標を設定し、それぞれの言葉の具体的目標と意義付けを共通理解できるようにしました。

#### ②レessonプランへの相互評価活動の位置付け

授業の最初の目標確認、活動の中での相互評価、また授業の最後でのふり返りと、児童と児童がお互いに相手のよいところを見つけ合い、よりよいコミュニケーション態度を学び合うことができるよう相互評価や自己評価を位置付けました。中学校でも同じコミュニケーション目標を掲げて取り組んでいます。

### 〔柱3〕小中教師が連携して、指導方法を探究する研修体制づくり

毎月開かれる英語教育研究会では、各分野の第一線で活躍されている講師の先生を招いて、指導方法、研修会の開き方、言語習得理論などを学び、各中学校区ブロックでは、小中の教師がレessonプラン集を使った模擬授業交流会を実施したり、翌月の授業について相談したりする活動を行っています。



### 3. 今後の課題

小牧市では小中の連携を効果的に行っていくために、次の3つの課題を掲げ、研究を続けています。そのためにも、小中学校の教師の積極的な関わり合いの場を確保して行くことが大切と考えています。

- ①DVDなどの教材を活用した小中の連携
- ②レesson内容の効果的な連携
- ③言語習得理論を活用したカリキュラムの見直し

# スピーチ活動の指導の工夫 ー「書く活動」と「話す活動」の連動ー

～ Unit 1 Project 自己紹介に挑戦！～

愛媛大学教育学部附属中学校 ざい ま 在間 正樹



## 1 はじめに

愛媛大学教育学部附属幼稚園・小学校・中学校では、平成 21 年度まで「＜人間力＞を育てる幼・小・中連携教育の探究」を主題に掲げ、研究を進めてきた。その基盤をもとに、22 年度からは「未来を拓く力の育成」という研究主題を設定して、更なる研鑽に励んでいる。本校では主題に沿って、「持続可能な社会を築くための、自立と共生の力を育む指導」を学校のテーマに据え、生徒の指導に当たっている。

「持続可能な社会」すなわち「世界中の人々や将来の世代までもが安心して暮らせる社会」を実現するためには、「これからの社会を築く一人としての自覚を持ち、社会に自ら寄与する力」を培う必要がある。世界で起こっている問題に、私たち自身が自覚を持ち、協力し合いながら解決していくことが大切である。そのために学級・学校の枠を越えて、社会へと出たときに、自分の考えや思いを表現し、相手に伝えること（「自分の気持ちや考えを表現し、伝える力」）や、相手の考えや思いも尊重し、協力しながら行動する意欲と態度（「多様な価値観を認め、互いの個性を尊重する力」「社会の形成者としての自覚を持ち、他と強調しながら自ら進んで行動する力」）が必要である。

英語科では、この力をコミュニケーション能力として捉え、4 技能を総合的に、バランスよく育成する言語活動を取り入れることで、それぞれの力が身に付いていくと考えた。特に、1 年次では「書く活動」と「話す活動」の表現活動の指導を工夫していきたいと感じ、表現技能をバランスよく育成するのに有効だと考えたスピーチ活動を、言語活動の 1 つとして取り入れ、題材に自己紹介活動を選んだ。

## 2 研究の内容と方法

不安を感じている生徒に自信を持ってスピーチ活動（自己紹介活動）をさせるために、まず自分のことについて振り返り、聞き手のことを考えながら、自己紹介文を書かせる時間を設けた。そして、級友と自己紹介をする機会を多く設定した。単に自己紹介をして終わりではなく、共に練り直して表現力を高めさせるために、できるだけ多くのペアと発表・助言をさせた。自分の英語が相手に伝わったり、相手の英語が理解できたりする喜びを味わわせることが大切である。この「書く活動」と「話す活動」をうまく連動させ、繰り返し行っていくことで、表現力を高めることができると考えた。

### 3 授業の実例（「書く活動」）

全9時間を単元として、自己紹介活動を行った（前半4時間は1学期に、後半5時間は2学期に実施）。1学期の4時間では、最初に「書く活動」に力を入れた。自分について振り返らせ、自己紹介の原稿を考えさせるために、マッピングを用いた。原稿を読むだけではスピーチ活動にならないので、内容に関する資料を合わせて作成させ、Show & Tell形式で活動をさせた。辞書を使って表現を調べたり、友人と確認し合って表現したりと、自主的・協同的に活動することができた。

＜発表用資料例＞



「好きなもの」や「欲しいもの」など書く内容は自由に選べた。

絵や写真を使って、補助的に説明させた。  
資料には英文を書かせない。

### 4 授業の実例（「話す活動」）

原稿や発表用資料を作成させたあと、自己紹介をする場面を設定した。学級という枠内ではすでに知っている者同士なので、新鮮味を感じない。そこで、初対面である大学生と自己紹介をさせた。原稿を見ながらでは声が小さくなり、相手を見ないで会話をするなど改善すべき点も出てきたが、生徒たちは進んで大学生と自己紹介をしようとする積極的な態度が見られた。一度自己紹介をして終わるのではなく、互いに助言をして（声や速さなど）繰り返すことで、表現力が高まるように工夫させた。

また1回の活動で終わるのではなく、さらに既習表現を使って原稿を考え直させ、今度は大学にいる留学生を相手に自己紹介する場面を設定して、「書く活動」と「話す活動」を連動させた（この活動は2学期に入ってからである）。

＜自己紹介の活動風景＞



大学と連携して、大学生や留学生に授業に参加してもらった。

大学生や留学生と自己紹介を交わしたあと、お互いが発表時の態度や内容についての助言をした。

## <活動時に用いたワークシート>

P39 Project 自己紹介に挑戦！その4  
1年( )組( )番( )

**目 標：自分のことをうまく伝えよう！**

① 自己紹介のポイントを確認しよう！！

|            |          |
|------------|----------|
| ① 声の大きさ    | ② 速 さ    |
| ③ 表情（視線など） | ④ 資料を上手に |
| ⑤ 内容がわかる   |          |

② クラスの人や大學生とお互いに自己紹介をしよう！（上のポイントに気をつけながら！）

| 名 前      | 4よかったー  | →よくなかった1 | コメント（具体的に）※良かったところなど                 |
|----------|---------|----------|--------------------------------------|
| 例： 附属 太郎 | ④・3・2・1 |          | 大きな声で言っていた。内容も分かりやすかった。犬が好きなことが分かった。 |
| ペア：( )   | 4・3・2・1 |          |                                      |
| 大學生：( )  | 4・3・2・1 |          |                                      |
| 大學生：( )  | 4・3・2・1 |          |                                      |
| 大學生：( )  | 4・3・2・1 |          |                                      |
| 男子：( )   | 4・3・2・1 |          |                                      |
| 男子：( )   | 4・3・2・1 |          |                                      |
| 男子：( )   | 4・3・2・1 |          |                                      |

| 名 前    | 自己紹介を聞いて | コメント（具体的に）※良かったところなど |
|--------|----------|----------------------|
| 男子：( ) | 4・3・2・1  |                      |
| 男子：( ) | 4・3・2・1  |                      |
| 男子：( ) | 4・3・2・1  |                      |
| 女子：( ) | 4・3・2・1  |                      |
| 女子：( ) | 4・3・2・1  |                      |
| 女子：( ) | 4・3・2・1  |                      |
| 女子：( ) | 4・3・2・1  |                      |
| 女子：( ) | 4・3・2・1  |                      |
| 女子：( ) | 4・3・2・1  |                      |

② 活動を振り返って、自己評価をしよう！

|                             | 嫌い ←    | → いいね |
|-----------------------------|---------|-------|
| 1 積極的に自己紹介しようとした            | 4・3・2・1 |       |
| 2 声の大きさを気をつけて自己紹介をした        | 4・3・2・1 |       |
| 3 速さを気をつけて自己紹介をした           | 4・3・2・1 |       |
| 4 表情（視線）など、気をつけて自己紹介をした     | 4・3・2・1 |       |
| 5 資料を上手に使いながら自己紹介をした        | 4・3・2・1 |       |
| 6 自己紹介の内容が友達に伝わったと思う        | 4・3・2・1 |       |
| 7 この活動で、あなたが特にがんばったことは何ですか。 |         |       |

8 次の自己紹介活動に向けて

## 5 今回の実践を通して

授業を終えての自己評価（単位：％）

| 質 問 項 目                | はい ← → いいえ |         |         |        |
|------------------------|------------|---------|---------|--------|
|                        | 4          | 3       | 2       | 1      |
| ① 資料を上手に用いながら自己紹介をした   | 58 (50)    | 33 (32) | 6 (13)  | 3 (5)  |
| ② 自己紹介の内容が友達に伝わったと思う   | 45 (43)    | 48 (52) | 8 (5)   | 0 (0)  |
| ③ 書いて話す活動は自己紹介に役に立った   | 53 (43)    | 32 (40) | 15 (17) | 0 (0)  |
| ④ 繰り返し自己紹介することは役に立った   | 43 (39)    | 51 (43) | 6 (10)  | 0 (8)  |
| ⑤ 自分には話す力が付いてきている、と感じる | 15 (20)    | 50 (43) | 33 (27) | 2 (10) |

※ ( ) 内の数字は前回実施の％を示す。

上の表は、授業を終えてから生徒たちに行った自己評価アンケートである。今回の実践では、「書く活動」と「話す活動」の工夫だけでなく、2つをうまく連動させて、表現力の向上をいかに育成するかという点で苦労した。中学1年生なので自己紹介という自分に関する話題を用いたが、持続可能な社会を築く一員として求められる能力や、資質の向上のための授業改善が今後必要になってくる。アンケート結果からも「繰り返し行う」ことは、各技能やコミュニケーション能力を向上させるのに有効であることが分かった。そこで、題材の精選や活動形態など見直した上で、評価の在り方についても研究を進め、スパイラルに活動を継続させていかなければいけないと感じた。

## 編集部からのお知らせとお願い

平成 23 年度用の教科書に下記の訂正箇所がございます。ご指導の際にはご注意ください  
ようお願い申し上げます。

### ● ONE WORLD English Course

| 学年 | ページ | 行              | 箇所                                                                 | 訂正内容                                                                     |
|----|-----|----------------|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 2年 | 36  | 7              |                                                                    | (星 新一 『時の人』 より)                                                          |
|    | 117 | help<br>の項     | <i>help ... with ~ ing</i><br>…が～するのを手伝う                           | <i>help ... with ~</i><br>…の～を手伝う                                        |
| 3年 | 64  | 脚注             | 名詞のあとに「 <u>文</u> 」(例 you want to take)をつなげることによって、情報をつけ加えることができます。 | 名詞のあとに「 <u>主語＋動詞＋～</u> 」(例 you want to take)をつなげることによって、情報をつけ加えることができます。 |
|    | 82  | 1              | <u>that</u> を入れて文を加えます。                                            | <u>2つの文を that でつなぎます。</u>                                                |
|    | 113 | dedicate<br>の項 | <i>dedicate ~ to ... ing</i><br>～を…することに捧げる                        | <i>dedicate ... to ~ ing</i><br>…を～することに捧げる                              |



## 生徒の心に火をつける 英語教師 田尻悟郎の挑戦

横溝紳一郎 編著 柳瀬陽介 大津由紀雄 著 田尻悟郎 監修

授業が終わるチャイムが鳴っても教室を出て行かない生徒の姿。生徒同士が教え合い、互いに励まし合いながら英語の学習に取り組む生徒の姿。カリスマ教師田尻悟郎先生の英語授業のエッセンスが詰まっています。

A5 判／308 頁 定価 2,520 円

## (英語)授業改革論



田尻悟郎 著

教科書って必要ですか？  
板書って必要ですか？  
教師の説明って必要ですか？ 予習って必要ですか？  
英語授業の「常識」とされてきたものを見直すきっかけとなる一冊。

A5 判／176 頁 定価 1,890 円

## 田尻悟郎の楽しい フォニックス 新装改訂版



田尻悟郎 著

田尻式フォニックスで発音をきたえよう！ 文字と音のつながりがわかる！  
これで初めての単語でも読める！  
これから英語を学ぶ人、英語を学び直したい人に必携の一冊。

B5 判／72 頁／CD1 枚付 定価 1,680 円

 教育出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10  
TEL 03-3238-6965 FAX 03-3238-6999  
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>





第9回

# 地球となかよし

## メッセージ

### 作品募集(2011年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、  
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

2010  
入選作品

応募  
資格

小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)

作品  
テーマ

- ①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、  
自然環境や生き物を守るための取り組み
- ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、  
異文化交流、国際理解に関すること
- ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えた  
りしたこと

応募  
期間

2011年7月1日～9月30日

詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。

応募者全員に  
参加賞が  
もらえるよ

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

### 「家族の一員」



ふと外を見ると舌を出し、幸せそうに飼い主と一緒に散歩をしている犬を見て、つられて笑顔になった。

ペットは、人々の心を癒し、落ち着かせたり、楽しませてくれたり、人々のために貢献しているのに対し、私たちはどうだろう。

ある人は虐待を繰り返し身勝手な行為でペットを苦しませている。約四十万頭というのは、年間、犬や猫が殺処分されている数。これが今起こっている現状だ。しかしペットはいくら放っておかれ、捨てられても愛し続け、いつかきっと迎えに来てくれると願いながら待っている。これまで思えばただ一つ、彼らには飼い主しかいない家族だからだ。

一度、ペットの視点を考えてみてはどうだろう。尊い命が一つ消えずに済み、一步「地球となかよし」に近づくことが出来るかもしれない。

◎主催／教育出版 ◎協賛／日本環境教育学会

◎後援／環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞

\*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。



## 教育出版

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6982 FAX 03-3238-6975  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10

英語教育 通信 ONE WORLD Info (2011 年 春号) 2011 年 3 月 31 日 発行

編集：教育出版株式会社編集局

発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光

印刷：大日本印刷株式会社

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10

電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



## なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F  
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509

函館営業所 〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F  
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198

東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F  
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395

中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F  
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825

関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F  
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401

中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町 3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F  
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040

四国支社 〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F  
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134

九州支社 〒810-0001 福岡市中央区天神 2-8-49 ヒューリック福岡ビル 8F  
TEL: 092-781-2861 FAX: 092-781-2863

沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F  
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411